

Dグループ グループワーク

1. 事例

手術中室温を下げたため、低体温によるシバリングを起こしてしまった D さん。

2. 気になるところ・もやもやしたところ

執刀医の圧が強い
医師はシバリングが当たり前の様子だったことがもやもやした
外回り看護師が1人で対応しているのが(麻酔科とかいたのに)もやもやする
下半身だけでなく上半身もウォーマーを使ったほうが良かったと思う

3. 「登場人物の気持ちの推量」(推量:相手の心中をおしはかること)

患者	家族
全身麻酔中 多分『寒い』だと思おう	
看護師	医師
患者のためにやりたいが、医師との関係性がなく、思った看護ができないことへのもどかしさ 保温以外のできることが分からない	執刀医 室温が下がらないことへのイラつき 手術時間が長くなり、焦燥感があった 麻酔科 麻酔科も患者を温めたいと思っていたが、外部の麻酔で言い出せなかったかも

4. 倫理的問題と課題

倫理的問題	その問題に対しどう行動すればよかったか
無害の原則 善行の原則 ハード面の不足 医師と看護師の関係性 医師との価値観の違い 指摘できない無力感	患者のため、医師のためと二人を優先は出来ないため、折り合いをつけることが必要だと思う 医師と価値観が違うので、ウォーマーを、もう一台準備するなどハード面の改善が必要

コメント(総括)

Dさんに対しては無害の原則、善行の原則に当てはまる

今回の事例は、ハード面、物質的なものもあるので、施設として事例を取り上げ倫理カンファレンス等を行い、検討する方向性も良いと思います。

医師の個人的なものは、徳の倫理に当てはまるので、室温や患者の体温など可視化して評価することで、お互いの折り合いの付く形にするよう検討するのが良いと思います

今回は活発な意見交換が出来て良かったと思います。担当:山田